

デマンドバスの展開は

町全域直営デマンド構想も



みやがわ のりみつ 宮川 徳光 議員

**問** デマンドバスの利用状況と今後の展開は。

**答** 武政総務課長

デマンドバスは、黒潮町の公共交通網の再編を目指して昨年度、高知県の補助を受けて、5月1日から平成26年3月31日まで、北郷加持6集落において、実証運行を行なった。

デマンドバスは予約運行なので、運行形態が従前の路線バスから大きく変わるために、事前に関係集落の区長さ

んや地域の方々との意見交換会を行なった。

このバスを利用する場合、自宅近くから目的地までの運行なので、とても便利と好評。利用状況は、導入開始の5月は54人だったが、その後少しずつ増え、翌年3月には103人の利用が。運行形態が週3日の隔日で1日5往復の運行ながら、実証運行期間の11カ月で681人の方にご利用をいただいた。この間の運賃収入は6万8100円、町の負担金は183万7千円。

**答** 大西町長

全町域の直営のデマンドの構想も持っている。これに係る経費と、それから現在の公共交通としての枝線の運行との経費の比較もできている。ただし、一気にやってしまうと、その経営管理ができるの

かどうなのか。また直営でやる場合、配車機能をどうやっていくのか。それから、ブロックごとになるので接続が相当複雑な作業になってくる。これらの課題を一つ一つ解消するために、一つずつデマンドを入れていく作業を今行っており、全体計画の中で年度ごとに少しずつ前に進んでいるというのが現状だ。

中山間対策

「あったか」の  
今後は

福祉ネットワーク  
を目指す

**問** あったかふれあいセンターの課題と対策は。

**答** 宮川健康福祉課長

同センターは、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集い、生活支援サービスなどを受けられることができる福祉の拠点として位置付けられており、集いを始め、訪問、相談などのサービスを実施しなければならぬ。

今後は、これらのサービスを充実させ、福祉の拠点とすると共に、地域に密着することで、地域と共働ができる施設にしたいと考えている。課題は、地域との連携や共働の仕組み作りと考えている。

また、地域の取り組みへの協力などを通じて、訪問や相談活動などに、より理解を深めていただければよう、取り組んでいかなければならない。

**答** 大西町長

この事業は、全町域をカバーできる福祉ネットワークを作る事業で、単に集う所をつくり集うだけでは、事業の意味がない。よって、休所日をつけてでも、本当に支援の手を必要とされている方への訪問、あるいは相談などを強化する必要があるということでの今の運営体制になっている。



「まちがいさがし」で頭のトレーニング中です  
(あったかふれあいセンターこぶし)